

2024 年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>○教科等の学習においては、基礎的・基本的な知識・技能を習得すること、また体験的な学習を積極的・計画的に取り入れて、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力、表現力等を育成することを重視する。その際、各教科の時間だけでなく、特別な教科 道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間でも、児童が主体的に課題に取り組み解決する学習を推進する。</p> <p>○「聞くこと、話すこと」に関わる態度と能力の育成については、国語科の学習を中心に、他の教科・特別な教科 道徳・特別活動・外国語活動・総合的な学習の時間など、全教育活動において指導する。その際、児童同士が話し合い、学び合い、高め合う指導形態や授業を工夫する。</p>

授業改善の重点
<p>○各教科の基礎・基本を明確にし、特に四則計算や漢字など、知識・技能の指導を重点的に行い、全児童に「できる学力」を習得させ、学ぶ意欲を高める。</p> <p>○算数科においては、少人数指導の授業を行い、習熟度別授業や様々な授業形態を工夫し「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた教材開発を行い、確かな学力の定着を図る。</p> <p>○各教科、特に算数の学習を中心に、導入問題、個別探究、対話的な学び合い、考えの発表、関連付けの学習の流れを単元ごとに工夫し、全学年にわたって主体的・対話的で深い学びの実践を行い「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。</p>

各教科の指導の重点	国語科	○ICTを活用した話し合いを学習の中で行うことで学習を深めていくことができるようにする。 ○漢字の学習を中心に基礎基本の学習の定着を目指していく。 ○普段の授業の中で、個々に発表したり、他者の話を聞いたりする機会を設け、習慣的に「話す、聞く」学習を取り入れていく。	音楽科	○以前よりもさらに細分化したスモールステップで進めることにより、意欲の持続と基礎的な学習内容の定着をはかる。友だちとかかわる場面を意図的に増やし、仲間意識を高められるよう、グループ活動を多く取り入れるようにし、ひとつの曲を力を合わせて作り上げる喜びを味わわせる。	総合的な学習の時間の指導の重点	○地域と協力して各学年で様々な体験活動を行うことで、自ら課題を発見し、自ら課題を解決する探究的な学習形態を経験させる。 ○活動や体験を通して、自分と身近な人々、地域及び自然との関わりに関心をもって活動に取り組みさせる。 ○探究的な活動形態を繰り返し、児童一人一人が主体的に取り組むことができるように指導計画を立てる。	特別の教科 道徳の指導の重点	○教科書を主たる教材として使用し、計画的な毎週の指導に協同的探求学習を取り入れながら引き続き取り組む。 ○道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を継続し、道徳的判断力を育成していく。
	社会科	○どの学年も、資料集を効果的に使ったり、画像の提示や教科書の写真などから、情報を読み解いたり、調べたりする活動を年間を通して行う。また、各種の資料を効果的に活用し、社会的事象の意味などを解釈したり事象の特色や事象間の関連を説明したりするなどの活動を行う。	図画工作科	○図工ノートを作成し、プリント学習やアイデアスケッチを行い、思考の過程と深まりが見えるようにする。 ○ICT機器の活用を積極的に行い、参考作品や制作方法を見せ、スモールステップで進めることにより、見通しをもって計画的に活動できるようにする。	特別活動の指導の重点	○集団の一員としてより良い人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる活動として、学級における係活動、たてわり班活動、委員会活動、クラブ活動に取り組む。集会委員会を中心に児童集会を行っていく。また、すべての活動を通して自主的、実践的な態度を育てるよう働きかけていく。	外国語活動(3・4年)の指導の重点	○HRT(学級担任)単独型指導のより一層の充実を目指し、研修等を通して担任個々の英語指導力の向上を図る。また、子供たちが楽しく積極的に学べるよう、ゲームやインタビュー等の活動をはじめ、ICTを用いながら視覚・聴覚に訴える授業づくりを行う。
	算数科	○四則計算を中心に基礎基本の学習の定着を目指していく。 ○少人数指導で習熟度授業を行い、同質集団のなかで、個人の考える力を伸ばすため、引き続き習熟度別少人数指導を継続していく。 ○ICT機器を随時活用し、視覚的に学習を補助。 ○基礎学力の根底となる四則計算力の向上は、モジュールの時間を使って行っていく。	家庭科	○作品作りでは、一人一人が到達目標をもって制作に取り組むことができるように、十分な時間を確保する。机間指導を通して、配慮が必要な児童への細かな対応を行う。 ○調理実習では、安全指導を徹底して行ない、怪我や事故なく取り組ませる。身に付けた知識や体験したことを生かして実生活の場でも楽しく過ごし、より豊かな生活が送れるように指導する。				
	理科	○実験器具を充実させ、実験や観察を多く取り入れられるようにする。既習事項を全体で確認した上でそれらをもとに予想し、児童が主体的に問題解決に向けて取り組み、実感を伴った理解を図ることができるようにする。	体育科	○学習カードを活用し、毎時間のめあてをはっきりさせて運動に取り組ませる。また児童が習得すべき技能を明確にして指導を行い、個人差に応じた指導を行う。 ○健康・安全については、一層、自分の体調に目を向けさせ、児童が健康の保持増進に意識をもてるようにする。				
	生活科	○地域を知ったり、地域から学んだりする活動や体験を通して、自分と身近な人々、地域及び自然との関わりに関心をもって活動に取り組ませる。 ○探究的な活動形態を繰り返し、児童一人一人が主体的に取り組むことができるように指導計画を立てる。	外国語科(5・6年生)	○外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づき、これらの知識を理解するとともに、読むこと書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に着けるようにする。				

ICT機器の活用	見通しをもたせる導入	振り返りの設定
1人1台のタブレット端末を授業で効果的に活用することにより、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、課題発見力・解決力や情報活用能力を伸ばす授業を展開していく。 児童がchromebook及びG suite for Educationを活用し、お互いの意見を共有したり、全体の傾向の把握やお互いの考えの比較・分類、整理などを行ったり、活用場面を意図的・計画的に設定していく。	単元のねらい・本時のねらいを達成するために、児童に何を学ぶか、どのように学ぶのか、見通しをもたせるように教材の準備をする。 児童にとって必然性があり、考えたくなり、探求し続けることができる課題を設定する。 ICT機器を活用し、児童の興味・関心を高められるような提示の仕方を工夫していく。 思考ツールを活用し、考え、表現する力を高める。	本時のめあてを振り返る時間を設定し、児童の言葉で、自己評価をさせていくことで、自己の変容と達成感を感じさせ、次への課題意識につながるように取り組ませる。また、教師は児童の振り返りをみとることで、理解度や定着度をはかる手立てとし、次時の学習に生かしていく。
本校の授業改善に向けて		